

# 2024年8月実施 人免疫グロブリン製剤供給調査結果

日本川崎病学会  
2024年9月3日

調査対象：emailで依頼可能な日本川崎病学会会員

調査方法：Google formによるアンケートに回答

調査期間：2024.8.19 ～ 2024.8.26

## 調査内容

質問1 貴施設における現在の川崎病治療における人免疫グロブリン製剤(IG)の供給状況についてお知らせ下さい。下記を目安にマークをお願いします。

- 1：IG治療が行えないほど供給が切迫している
- 2：治療に必要なIGが確保できない時がある
- 3：使用製剤(5%, 10%)や規格(5g, 10g, 20g)に制限はあるが治療が行えている。
- 4：多くの場合、希望する製剤が使用できている
- 5：希望するIG治療がいつでも行えるだけの在庫がある。

質問2 質問1に関して追加記載することがありましたらお願いします。

質問3-1 昨年10月から現在までに免疫グロブリン供給不足で適切な川崎病患者の治療ができなかったことや入院患者を断ったことがありますか？

質問3-2 質問3-1で「はい」とお答えになられた方へそれは何年何月ですか

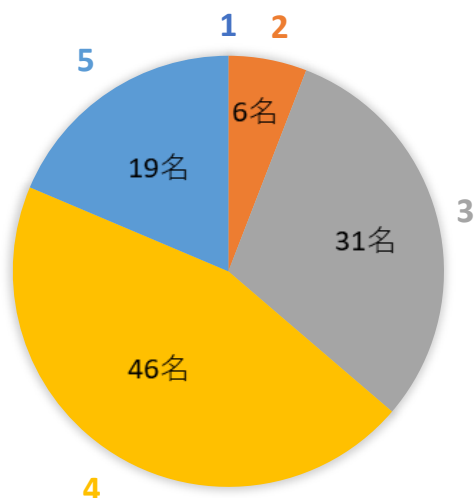
質問4-1 昨年10月から現在までに免疫グロブリン不足により入院が受けられないために近隣の病院から患者受け入れの要請があったことがありますか？

質問4-2 質問4-1で「はい」とお答えになられた方へそれは何年何月ですか

質問5 その他、人免疫グロブリン製剤供給について御意見がありましたら御記載ください。

回答：102施設102名

質問1 貴施設における現在の川崎病治療における人免疫グロブリン製剤(IG)の供給状況についてお知らせ下さい。



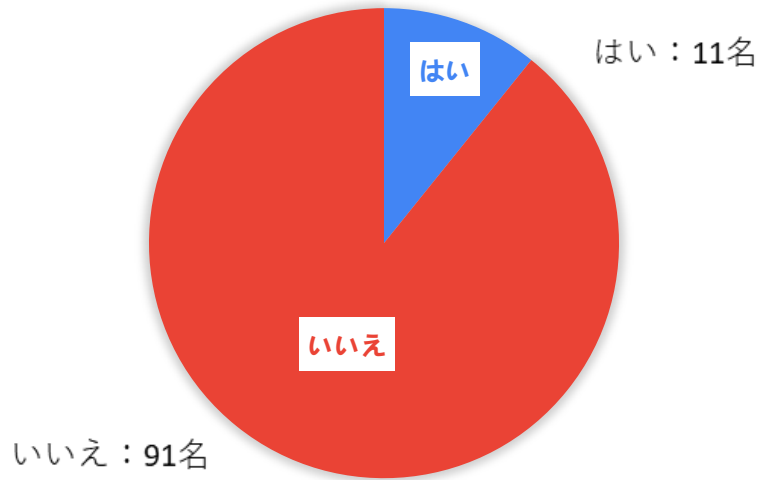
- 1：IG治療が行えないほど供給が切迫している
- 2：治療に必要なIGが確保できない時がある
- 3：使用製剤(5%, 10%)や規格(5g, 10g, 20g)に制限はあるが治療が行えている
- 4：多くの場合、希望する製剤が使用できている
- 5：希望するIG治療がいつでも行えるだけの在庫がある

1：0名 2：6名 3：31名 4：46名 5：19名 計102名

質問2 質問1に関して追加記載することがありましたらお願いします。(順不同)

- ✓ 一時期のひっ迫から考えると安定している
- ✓ 10%製剤は5gしか使用できません(10gは成人科用。過去実績がすくないためとのこと)
- ✓ 薬剤部からは度々供給不安定である旨、お知らせが来ます。卸とのやりとりで不足にならないよう適宜購入しているようです。
- ✓ 薬剤科の努力が大きい。
- ✓ 2.5g製剤が不足しているため、投与量が2g/kgを大きく超えることがあります
- ✓ 4と5の間くらいです。
- ✓ 10%製剤を小児科に優先的に供給してもらうように薬剤部に要請している
- ✓ 小児科・神経内科では川崎病以外の疾患に対するグロブリン製剤使用の際は、可能であれば川崎病に対して適応のないグロブリン製剤を優先的に使用してもらっている。
- ✓ 周辺医療施設からIG供給不足の為、治療出来ないとの理由での紹介がしばしばある。
- ✓ 当院では月に数回程度、薬剤部からIGの在庫状況に関して、院内で共有メールが流れており在庫状況が常にわかるようになっています。
- ✓ 入院を断ることが一時期あった。5%製剤の他薬剤の採用により治療が継続できるようになった。
- ✓ 複数名の川崎病患者が同時に入院した際に確保が困難なことがあった。
- ✓ 当院内科でIVIgを使用する患者さんが集ってしまい、当院への配分を消費していたため
- ✓ 数か月前までは、供給がひっ迫し、院内で調整会議がありましたが、今は大丈夫です。
- ✓ 製剤の選択などは、その都度薬剤部と協議して在庫状況を参考に決定している
- ✓ 薬剤部が協力してもらえらるほか、JBもいつでも相談に乗ってくれます。
- ✓ 長らく規格の変更を希望しているが叶わない。
- ✓ 使用量を減らすような工夫は続けている。
- ✓ 当院は、薬剤部が薬剤確保に積極的に動いているという背景もあるかと思います。
- ✓ 再投与時にロット番号を変更するのは困難なことも時々あります
- ✓ 先月においては、希望する製剤が使用できない場面もあったが、今月ぐらいから改善している。
- ✓ ピリピジェン以外の薬剤は入力制限がかかっており、使用時には薬剤部への連絡が必要。
- ✓ 元々は大部分が10%製剤で治療されていたが、供給不足になってから5%製剤と10%製剤の選別をマニュアル化し、概ねマニュアル通りの製剤で治療できている。
- ✓ 以前は10%製剤を使用していたが使えなくなっている。
- ✓ 薬剤部に依頼して川崎病の治療に優先的に確保してもらっている。

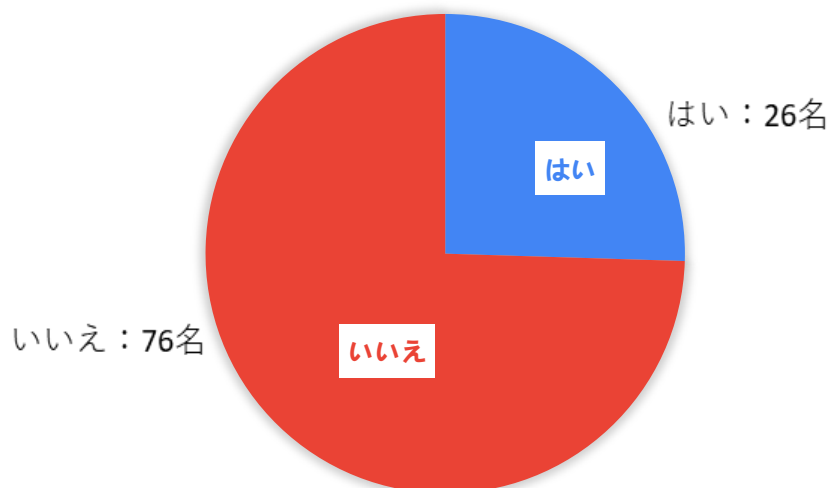
質問3-1 昨年10月から現在までに免疫グロブリン供給不足で適切な川崎病患者の治療ができなかったことや入院患者を断ったことがありますか？



質問3-2 質問3-1で「はい」とお答えになられた方へ それは何年何月ですか

- |                  |     |
|------------------|-----|
| ✓ 2023年10月～12月   | 東京都 |
| ✓ 2023年11月       | 佐賀県 |
| ✓ 2023年11月       | 東京都 |
| ✓ 2023/11月頃      | 東京都 |
| ✓ 2023年12月       | 愛知県 |
| ✓ 2024年1月        | 東京都 |
| ✓ 2024年1月        | 愛知県 |
| ✓ 2024年3月        | 愛知県 |
| ✓ 2024年2月        | 埼玉県 |
| ✓ 2024年5月、その前に2回 | 広島県 |
| ✓ 2024年4月、5月、6月  | 大阪府 |
| ✓ 2024年7月        | 東京都 |
| ✓ 2024年8月        | 広島県 |
| ✓ 不明             | 愛知県 |

質問4-1 昨年10月から現在までに免疫グロブリン不足により入院が受けられないために近隣の病院から患者受け入れの要請があったことがありますか？



質問4-2 質問4-1で「はい」とお答えになられた方へ それは何年何月ですか

- |   |      |
|---|------|
| ✓ 2023年6月                               | 東京都  |
| ✓ 2023/10月から現在まで複数回                     | 東京都  |
| ✓ 2023年10月頃                             | 長崎県  |
| ✓ 2023年10月頃1件くらい                        | 栃木県  |
| ✓ 2023年10月、11月、2024年1月                  | 埼玉県  |
| ✓ 2023年10月ー翌年1月まで                       | 埼玉県  |
| ✓ 2023年11月                              | 栃木県  |
| ✓ 2023年11月                              | 新潟県  |
| ✓ 2023年11月                              | 千葉県  |
| ✓ 2023年12月                              | 佐賀県  |
| ✓ 2023年12月頃（不確か）                        | 東京都  |
| ✓ 2024年2月頃                              | 新潟県  |
| ✓ 2024年2月ころ                             | 愛知県  |
| ✓ 2024年3月                               | 愛知県  |
| ✓ 2024年3月に1件                            | 宮崎権  |
| ✓ 2024年3月、5月、6月、7月、8月                   | 岡山県  |
| ✓ 2024年4月                               | 福岡県  |
| ✓ 2024年4～6月                             | 愛知県  |
| ✓ 2024年7月                               | 新潟県  |
| ✓ 2024年8月                               | 東京都  |
| ✓ 1年以内に数回、複数施設より                        | 千葉県  |
| ✓ 不明                                    | 愛知県  |
| ✓ 失念しましたが、今年度ではありません。体重が大きい患者の追加ができず転院。 | 神奈川県 |

質問5 その他、人免疫グロブリン製剤供給について御意見がありましたら御記載ください。(順不同)

- ✓ 一日も早い安定供給を望みます。
- ✓ 鹿児島県は離島を含め、診療に困っているということはなさそうです。
- ✓ 最近は、困らなくなりました。
- ✓ 現在は病院の各月の使用実績により、メーカーからの卸量が決まってくる仕組みになっているので、特に内科での使用実績がない当院では、体重の大きな症例が続いたときなどでたびたび不足する事態になります。より広域で包括的な薬剤の供給システムが構築されることを願います。
- ✓ IgG2欠損症に対するIVIg治療のハードルが、日本は低すぎます。またカットオフのIgG2値も全年齢で一律であるなど粗雑すぎる印象を受けます。既存のエビデンスあるいは国内・海外でのガイドラインも踏まえて、再検討されるよう小児科学会に働きかけていただきたく存じます。
- ✓ 当院でも積極的に2nd IFXを導入するようにしました。
- ✓ 特にありません。
- ✓ 十分な供給量があって、川崎病患者の治療に困難を生じない状況が望まれます。
- ✓ 不足していることを広告することは必要かもしれません。
- ✓ 当院では、神経内科が輸入製剤を積極的に使用する形で協力してくれて乗り切りました。
- ✓ 使用のたびに薬剤科が残数を記録してくれている
- ✓ きっちりと安定供給できる策を考えてほしい
- ✓ ない。
- ✓ 川崎病患者は、流行があり、いま、大丈夫でも、安定供給がないと増えた時に対応できない。製薬会社に安定供給をお願いしたいし、不足のときには、ほかのグロブリン製剤でも、川崎病に使用できるように、適応拡大してもらいたいです。
- ✓ 当院含め高知県内では安定供給されていると思われま
- ✓ 川崎病の治療が遅れることの重要性（危機感）については情報提供を行い、内科の先生方にもご理解をして頂く必要があると思います。川崎病に適応のある製剤をなるべく確保できるよう本学会としても声を上げていくことが重要かと感じました。引き続きよろしくお願ひいたします。
- ✓ 供給不足の情報は、小児科の中でも神経科・血液科には伝わっていないと思う（院内で努力はしているが）。
- ✓ 当院では10%製剤はできるだけ川崎病優先、ITPや成人領域は5%製剤を選択などある程度使い分けをルール決めして運用しています。
- ✓ 特にございませ。ありがとうございます。
- ✓ 可能なら10%製剤が使用できる状況を希望している。

## 回答協力施設 (順不同)

- ✓ 長岡赤十字病院／小児科
- ✓ 国立循環器病研究センター 小児循環器内科
- ✓ 静岡市立静岡病院小児科
- ✓ 福岡赤十字病院／小児科
- ✓ 唐津赤十字病院小児科
- ✓ 鹿児島市立病院小児科
- ✓ 北海道立子ども総合医療・療育センター/小児循環器内科
- ✓ 鹿児島大学病院／小児科
- ✓ 東京都立小児総合医療センター 循環器科
- ✓ いわき市医療センター
- ✓ 日本医科大学付属病院 小児科
- ✓ 茨城西南医療センター病院小児科
- ✓ 福山医療センター
- ✓ JCHO徳山中央病院小児科
- ✓ トヨタ記念病院/小児科
- ✓ 東京ベイ・浦安市川医療センター
- ✓ NTT東日本札幌病院 小児科、臨床検査科
- ✓ 福岡徳洲会病院/小児科・新生児科
- ✓ 東京北医療センター小児科
- ✓ 山口大学医学部附属病院／小児科
- ✓ 松戸市立総合医療センター 小児科
- ✓ 国立成育医療研究センター 総合診療部
- ✓ あいち小児保健医療総合センター/感染免疫科
- ✓ 秋田赤十字病院 小児科
- ✓ 江別市立病院小児科
- ✓ 東京医科大学 小児科・思春期科
- ✓ 高知大学医学部附属病院 小児科
- ✓ 藤田医科大学小児科
- ✓ 市立旭川病院
- ✓ 京都きづ川病院/小児科
- ✓ 広島市立北部医療センター安佐市民病院/小児科
- ✓ 鹿児島市立病院 小児科
- ✓ 海南医療センター 小児科
- ✓ 京都市立病院小児科
- ✓ 順天堂大学小児科
- ✓ 自治医科大学 小児科
- ✓ 大和郡山病院 小児科
- ✓ 堺市立総合医療センター小児科
- ✓ 岡崎市民病院/小児科
- ✓ 名古屋記念病院／小児科
- ✓ 福井大学医学附属病院 小児科
- ✓ 町田市民病院小児科
- ✓ 東京都立東部地域病院/小児科
- ✓ 宮崎県立宮崎病院／小児科
- ✓ 近畿大学病院 小児科・思春期科
- ✓ 東邦大学医療センター大森病院小児科
- ✓ 国立病院機構横浜医療センター 小児科
- ✓ 新潟大学医歯学総合病院 小児科
- ✓ 田附興風会医学研究所北野病院
- ✓ 日本赤十字社医療センター 小児科
- ✓ 京都済生会病院/小児科
- ✓ 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 小児科
- ✓ 獨協医科大学埼玉医療センター小児科
- ✓ 高知赤十字病院/小児科
- ✓ 埼玉県立小児医療センター/感染免疫アレルギー科
- ✓ 名古屋大学小児科
- ✓ 茨城県立こども病院／小児循環器科
- ✓ 川崎医科大学付属病院/小児科
- ✓ 山梨大学 小児科
- ✓ 網走厚生病院 小児科
- ✓ 佐賀大学医学部附属病院 小児科
- ✓ 中東遠総合医療センター小児科
- ✓ 日本医科大学多摩永山病院小児科
- ✓ 四国こどもとおとなの医療センター 小児科
- ✓ 三重大学 小児科
- ✓ 岡山大学病院/小児科
- ✓ 京都中部総合医療センター/小児科
- ✓ つがる西北五広域連合つがる総合病院 小児科
- ✓ 小倉医療センター
- ✓ 魚沼基幹病院 小児科
- ✓ 旭川厚生病院 小児科
- ✓ 滋賀医大
- ✓ 済生会横浜市東部病院 小児科
- ✓ 京都府立医大小児科
- ✓ 千葉大学医学部附属病院小児科
- ✓ 京都第二赤十字病院 小児科
- ✓ 長崎大学小児科
- ✓ 山形大学医学部附属病院 小児科
- ✓ 長崎医療センター 小児科
- ✓ 戸田中央総合病院 小児科
- ✓ 獨協医科大学病院 小児科
- ✓ 横浜市立大学附属病院小児科
- ✓ 大垣市民病院 第2小児科
- ✓ 加古川中央市民病院/小児循環器内科
- ✓ 金沢医科大学小児科
- ✓ 西宮市立中央病院
- ✓ 日本大学医学部附属板橋病院/小児科
- ✓ 済生会宇都宮病院 小児科
- ✓ 横浜市立みなと赤十字病院 小児科
- ✓ 医療法人社団圭春会小張総合病院 小児科 病理
- ✓ 彦根市立病院小児科
- ✓ 東邦大学医療センター大橋病院
- ✓ 成田赤十字病院 小児科
- ✓ 大阪府済生会茨木病院/小児科
- ✓ 藤田医科大学ばんだね病院
- ✓ 福岡大学 小児科
- ✓ 香川県立中央病院小児科
- ✓ 姫路赤十字病院 小児科
- ✓ 千葉市立海浜病院 小児科
- ✓ 佐賀大学医学部 小児科